

©山本彬世¹⁾ 村上瑛¹⁾ 田中康太²⁾ 吉田功輝²⁾ 増田詩織³⁾
大阪医療技術学園専門学校¹⁾ 日本医療学院専門学校²⁾ 近畿大学医学部附属病院 中央臨床検査部³⁾

【はじめに】

尿化学定量検査は、随時尿の個人の日内変動が大きく、尿クレアチニン補正や蓄尿による時間排泄量で評価されてきた。今回われわれは、随時尿の採尿時毎の変動を調べ、日内変動を少なくする補正について考察する。

【方法】

対象は、健康な学生4名（男女2名）で行った。各被験者は24時間内の自然排尿時の全尿を採取した。各尿試料は、尿量、Na, K, Cl, Ca, Pi, Mg, UN, creatinine, UA, GLU, TP, amylase, NAG, M-Alb, B2MG, 比重の17項目を測定した。各測定結果は、尿creatinine補正、浸透圧補正を行い、日内変動が補正前後で小さくなる項目を調べた。

【結果】

1. 各尿化学定量検査項目の日内変動

日内変動が小さい項目は、Ca (CVが5.4–32.1%) , Mg (CVが12.4–28.8%) であった。日内変動が大きい項目は、Pi (CVが44.7–67.1%) , Creatinine (CVが31.2–47.4%) であった。

2. クレアチニン補正の日内変動

Amylaseは補正前(CVが22.6–39.9%)の日内変動が補正後(CVが2.9–15.0%)になった。またB2MGは補正前(CVが26.3–36.5%)の日内変動が補正後(CVが6.0–11.8%)になった。M-Albは補正前(CVが28.2–59.7%)の日内変動が補正後(CVが8.7–35.7%)になった。それ以

外の項目では、補正効果はなく日内変動は大きい結果であった。

3. 浸透圧補正の日内変動

尿浸透圧を計算式で求め、補正効果を検討した。ほぼ全項目において補正効果は認めなかった。

【結語】

随時尿の尿化学定量検査は、各個人内においても変動が大きい。amylase, B2MG, M-Albの定量値は尿creatinine値で補正することで、日内変動のバラツキを小さくすることができる。

連絡先 近畿大 増田詩織 shiori-masuda@med.kindai.ac.jp